

半田市における 地域包括ケアモデル事業（2年目）の取組 （認知症対応モデル）

半田市福祉部高齢介護課

1. 認知症対応への新たな取組

認知症ケアパスの作成を通して抽出された地域課題

NO	課題	目指す姿	検討の場
1	地域住民の認知症への理解が不足している。	老いや病気に理解のある人々に囲まれ、地域の活動を続けられています。	<ul style="list-style-type: none"> 認知症対応検討会議 地域支援WG
2	物忘れが気になり始めた時に、相談する窓口が明確でなく、適切な時期に医療に結びついていない。	物忘れが気になり始めた時には、適切な医療と予防方法が相談できます。	<ul style="list-style-type: none"> 認知症対応検討会議 初期支援相談WG 地域支援WG
3	物忘れが気になり始めた時に、予防に取り組む場が少ない。		<ul style="list-style-type: none"> 認知症対応検討会議 地域支援WG
4	認知症を疑った場合に本人・家族がチェックできるものがない。		<ul style="list-style-type: none"> 認知症対応検討会議 作業部会 地域支援WG
5	認知機能低下をスクリーニングする機会がない。		<ul style="list-style-type: none"> 認知症対応検討会議 初期支援相談WG
6	周囲は認知症を疑っているが、医療・介護につながっていないケースの初期支援対応が不足している。		<ul style="list-style-type: none"> 認知症対応検討会議 初期支援相談WG
7	市内に認知症の専門医療機関がなく、診断までに時間を要している。		<ul style="list-style-type: none"> 認知症対応検討会議 初期支援相談WG
8	認知症の進行時期に応じて、どのようなサービスなどが受けられるのかがわかりにくい。		体調を崩して入院しても、治療を終えると、再び住み慣れたまちで暮らせる仕組みがあります。
9	家族などが認知症の介護について学ぶ機会が少ない。	介護や看病で家族が疲れないように、支えてくれる人や仕組みがあります。	<ul style="list-style-type: none"> 認知症対応検討会議 家族支援WG
10	家族などが気楽に集いながら認知症のことを相談できる場がない。		<ul style="list-style-type: none"> 認知症対応検討会議 家族支援WG
11	認知症が進行し介護認定を受けると、これまで通っていた地域のサロンなどに参加できなくなり、地域とのつながりが途絶えてしまう。	老いや病気に理解のある人々に囲まれ、地域の活動を続けられています。	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアシステム協議会生活支援部会ほか
12	徘徊が起こった際に、情報を地域住民に伝えるしくみがない。	道に迷って困っている時に、見守ってくれる人、捜してくれる人たちがいます。	<ul style="list-style-type: none"> 認知症対応検討会議 地域支援WG

半田市の目指す認知症対応の姿



初期相談・予防

もの忘れが気になりはじめた時には、適切な医療と予防方法が相談できます。

「認知症」になっても、だれもが自分らしく暮らせるまち・はんだ

わたしには何でも相談できる人がいます。
わたしには身近に集える場所があります。
はんだには気軽に参加できる機会があります。
はんだには困ったときに支え合うしくみがあります。
わたしには地域で役割があり、
そこで安心して暮らすことができます
(半田市地域福祉計画)



家族支援

介護や看病で家族が疲れないように、支えてくれる人や仕組みがあります。



医療と介護の連携

体調を崩し入院しても、治療を終えると、再び住み慣れたまちで暮らせる仕組みがあります。



普及啓発・ふくし共育

老いや病気に理解のある人々に囲まれ地域の活動を続けることができます。



SOSネットワーク

道に迷って困っている時に、見守ってくれる人、捜してくれる人たちがいます。



終末期の事前指示

自分で意思表示ができなくなった時のために、事前に私の希望を伝えておくことができます。

① 認知症対応検討会議3ワーキングでの検討

○認知症対応検討会議の下部組織として、3つのワーキングを設置し、課題に対する対応策・具体的事業を検討・実践している。

①初期支援・相談ワーキング：**医療・介護の面**から検討する
(今年度5回開催予定)

- ・主な検討内容：認知症初期集中支援チームの設置
- ・参加者：医師、歯科医師、薬剤師、認知症介護指導者、訪問看護師、ケアマネージャー、作業療法士、社会福祉士

②家族支援ワーキング：**介護家族への支援の面**から検討する
(今年度3回開催予定)

- ・主な検討内容：認知症カフェの実施、介護家族の学び・交流の場
- ・参加者：NPO法人代表、家族代表、地域代表、認知症の人と家族の会

③地域支援ワーキング：**地域への支援の面**から検討する
(今年度3回開催予定)

- ・主な検討内容：行方不明対策、認知症サポーターの活用方法
- ・参加者：日本福祉大学、民生委員、知多地域安心ネット、民間企業

<成果、課題>

・認知症対策に対して、3つの分野から具体的な対応方法を検討することができた。

②-1 認知症安心ガイドブック（認知症ケアパス）の発行



＜作成の目的＞

「可能な限り住み慣れた地域で、本人の意思が尊重され、安心・安全に暮らし続けられるために必要なことは何か？」を多職種・地域・介護家族などで検討した。



認知症の方やその家族・地域の方が、認知症について「**今後の見通しを持つこと**」が重要である。



医療・介護・家族の考えた「**認知症について知ってもらいたいこと**」をまとめた。

認知症対応医療機関

まずは、ご自身の**かかりつけ医**にご相談ください。かかりつけ医のない場合は下記のリストをご参照ください。

☆ 認知症サポート医 ☆ かかりつけ医認知症対応力向上研修の修了者 がいいる医療機関

医療機関名	住所	電話	医療機関名	住所	電話
★青山外科	半田市青山 2-21-10	23-8101	★女性クリニック	半田市幸町 3-1-4,3	26-2227
★安野内科	半田市広の谷町 58-7	21-3286	★健診病院	半田市鶴巻町 6-65	28-0566
★今泉内科	半田市津神町 8-13-4	22-1197	★中野クリニック	半田市幸町 4-19-1	22-1212
★乙川さとうクリニック	半田市朝倉町 58-4	83-8301	★海陽院	半田市北二ツ新町 3-6-40	23-6611
★杉田病院	半田市南長町 4-154-4	22-0571	★病院	半田市幸町 2-37	21-1339
★任志町クリニック	半田市任志町 2-165	32-2121	★藤野内科	半田市青山 7-12-20	22-5539
★高川クリニック	半田市栗生町 1-40	21-5531	★藤原病院	半田市吉田町 5-56	27-5166
★高橋病院	半田市平地町 3-77-2	28-0567	★★みやま医院	半田市色津町 3-232	21-8138
★竹本クリニック	半田市万壽町 3-3-23	24-7722	★★クリニック	半田市栗生町 1-50-17	32-3883
★知多クリニック	半田市本町 7-20	21-0052	(五十音順)		

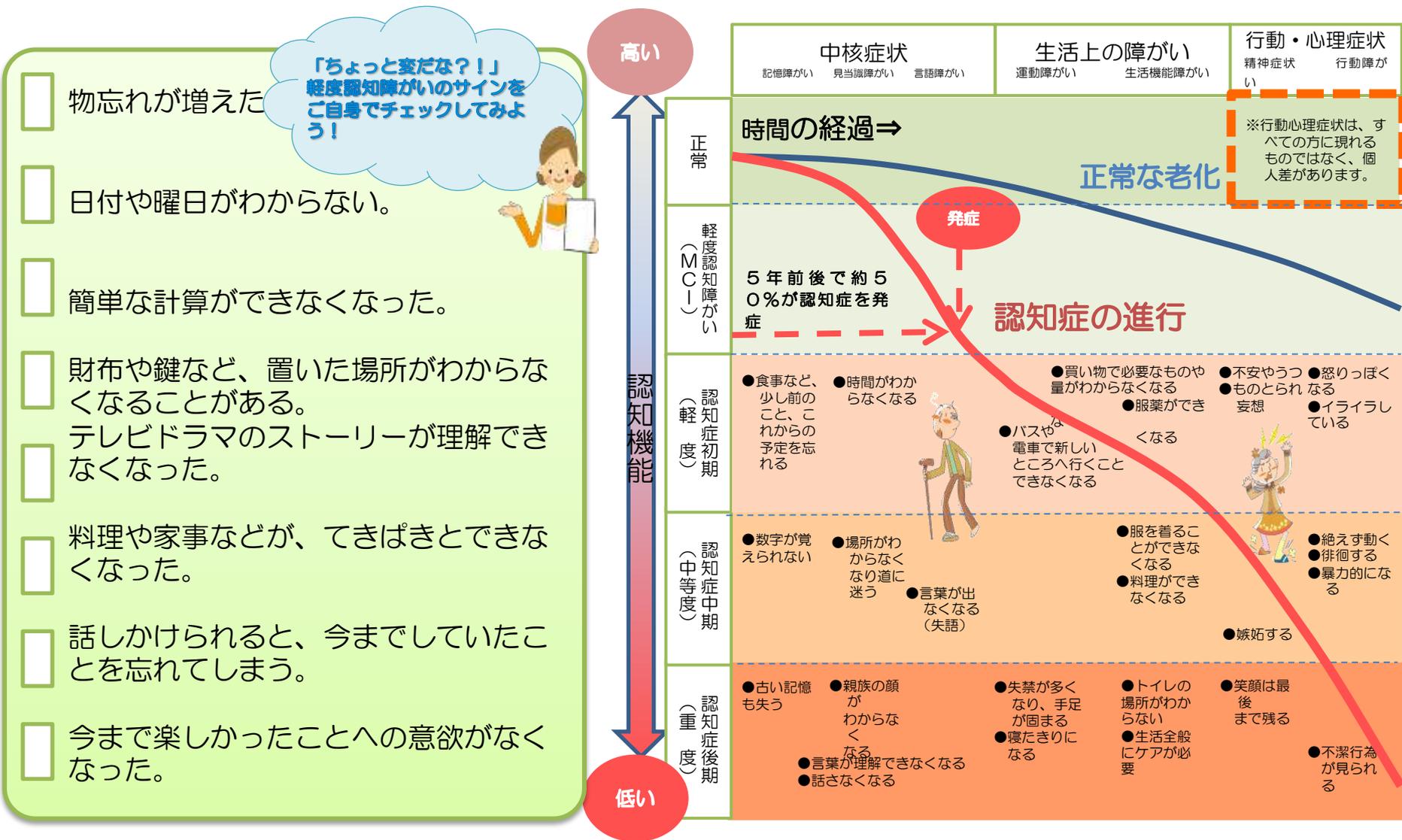
※詳しくは、半田市医師会のホームページをご覧ください。 <http://handa-med.net/>

医師会のご協力により、本編の全てに、市内の認知症対応医療機関を掲載した。

＜特徴＞

入門編・予防編・支援の流れ編・家族の心構え編、及び別冊若年性認知症安心ガイドブックの5冊からなる。入門編に活用チャートを載せ、必要な情報を記載したガイドブックを選択可能。サービスの一覧は、「認知症支援シート」として掲載している。

②-2 認知症安心ガイドブック（認知症ケアパス）の発行



②-3 認知症安心ガイドブック（認知症ケアパス）の発行

認知症支援シート

☆：参加・利用可 ★：以前から参加・利用している場合は可 ◇：参加・利用可能な場合あり
 空欄：原則参加・利用不可 ○：要介護1以上利用可 ●：要支援1以上利用可



支援の内容	認知症の生活機能障がい	認知機能					連絡先掲載ページ
		認知症の軽い	認知症を有するが日常生活は自立	誰かの見守りがあれば日常生活は自立	日常生活に手助け・介護が必要	常に介護が必要	
1 相談したい	①かかりつけ医・認知症対応医療機関 ②包括支援センター ③市役所 ④居宅介護支援事業所(ケアマネジャー) ⑤認知症対応型サービス(地域密着型サービス)	☆	☆	☆	☆	☆	3,4
2 社会参加や他者との繋がりを保ち、発症予防・進行防止したい	①介護予防講座 ②老人クラブ ③健康体操同好会 ④スポーツクラブ体操教室 ⑤福祉センター・共生型福祉施設・地域ふれあい施設 ⑥家庭訪問員 ⑦地域ふれあい会 ⑧おでかけサロン ⑨楽らく体操教室 ⑩はつらつ頭の体操教室 ⑪デイサービス ⑫認知症対応型デイサービス	☆	☆	☆	◇	●	4,5,6 6 6,7 7 7
3 リハビリ、重症化予防をしたい	①デイケア ②訪問リハビリ ③認知症対応型サービス ④小規模多機能型居宅介護 ⑤介護老人保健施設			●	●	●	7 7 7
4 介護について学びたい、同じ立場の人と話したい(介護家族)	①介護家族教室 ②介護家族交流会	☆	☆	☆	☆	☆	7
5 支援が受けたい(介護家族)	①福祉用具貸与 ②ヘルパー ③ショートステイ(福祉・医療)			●	●	●	8
6 家事援助が受けたい	①地域の応援隊 ②たすけあいヘルパー ③シルバー人材センター ④ヘルパー	☆	☆	☆	☆	●	8 8 8

支援の内容	認知症の生活機能障がい	認知症の軽い	認知症を有するが日常生活は自立	誰かの見守りがあれば日常生活は自立	日常生活に手助け・介護が必要	常に介護が必要	連絡先掲載ページ
7 食事を助けて欲しい	①民間配食サービス ②市配食サービス	☆	☆	☆	☆	☆	9
8 外出時に支援して欲しい	①福祉タクシー・介護タクシー	☆	☆	☆	☆	☆	9
9 家の修繕を手伝って欲しい	①地域の応援隊 ②シルバー人材センター	☆	☆	☆	☆	☆	9 10
10 安否確認や見守りをして欲しい	①家庭訪問員 ②民生委員訪問 ③新聞配達等見守り	☆	☆	☆	☆	☆	10 10
11 緊急時に連絡が取れるようにしたい	①緊急通報装置	☆	☆	☆	★	☆	10
12 金銭管理を支援して欲しい	①日常生活自立支援事業 ②成年後見制度			☆	★	☆	10 11
13 身元保証をして欲しい	①民間身元保証団体	☆	☆	☆	☆	☆	11
14 通院時に援助して欲しい	①福祉タクシー ②ヘルパー	☆	☆	☆	●	●	11 11
15 在宅生活が困難	①有料老人ホーム等 ②ケアハウス ③地域密着型特定施設入居者生活介護 ④グループホーム ⑤特別養護老人ホーム	☆	☆	☆	☆	★	11 12 12 12
16 医療が受けたい	①かかりつけ医・認知症対応医療機関 ②国立長寿医療研究センター(紹介) ③かかりつけ薬局 ④訪問看護	☆	☆	☆	☆	●	12 12 12
17 緊急時(精神症状がみられる場合など)に支援が受けたい	①かかりつけ医・認知症対応医療機関 ②精神症状が診られる医療機関(国立長寿医療研究センター、大府病院、南知多病院)	☆	☆	☆	☆	☆	13 13

③認知症安心ガイドブック普及啓発

○認知症サポーターフォローアップ研修会

認知症サポーターが、地域で見守りや予防、生活支援等で活動いただくにあたり、認知症安心ガイドブックを活用できるように講座を開催した。

参加者 99名

○在宅ケア推進地域連絡協議会

在宅ケアに関係する医療・介護職主の連携の場にて説明会を開催した。

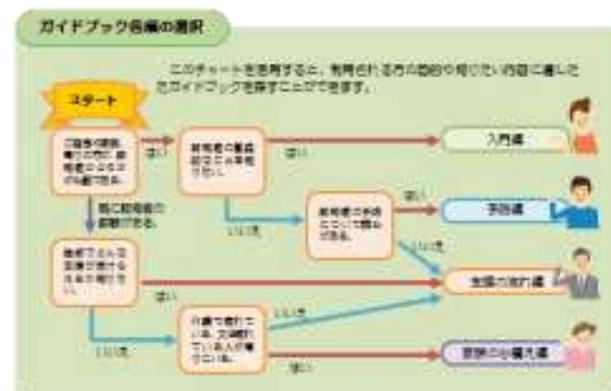
参加者 74名

○その他、依頼に応じて説明会を開催

(コミュニティ、介護事業所、民生委員等)

<内容>

- ①作成の目的
- ②各編の注目ポイント
- ③どんな場面でどの編が活用できるか



<成果、課題>

- ・ガイドブックを目にした反応を直接確認することができた。
- ・専門職種、認知症サポーターから、必要な方へ配布していただいている。

④認知症初期集中支援チーム設置の検討・稼働

半田市版認知症初期集中支援チーム（半田オレンジサポートチーム：HOST）

困難事例の介入方法の成功事例を蓄積↓専門職のスキルアップへ活用

対象者の把握 包括支援センター・市役所への相談から

本人・家族・近隣住民・民生委員・見守り協定事業所 など

初回アセスメント 初期集中支援チーム対応・包括支援センター対応の判断
(認知症地域支援推進員などによりケース選定)

包括支援センター

高齢介護課

チーム対応不要（包括支援センター対応）
・チーム員の多職種での対応が不要なケース

初期集中支援チームで対応するケース

40歳以上で認知症が疑われ、在宅で生活しており、

◆医療機関で認知症の診断を受けていない者、または治療を中断している者

◆介護サービスを受けていない者、または中断している者

◆医療・介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著で、対応に苦慮しており、
チーム員による多職種での対応が必要と思われる者

チーム員会議の開催

認知症初期集中支援チーム

チーム員（ケースに応じて実際の支援にあたる職種を決定）

医師・歯科医師・薬剤師・看護師・保健師・作業療法士・社会福祉士・介護福祉士

初期集中支援の実施
(本人・介護者支援)

・認知症疾患医療センター
(国立長寿医療研究センター)
・認知症サポート医
・かかりつけ医

サービス提供機関への引き継ぎ
(6か月目途)

・包括支援センター
・ケアマネージャー

引き継ぎ後のモニタリング

⑤介護家族の交流の場の提供

○平成26年度開催の「介護家族勉強会」参加者を対象に、隔月でフォローアップの交流会を、認知症サポート医・主任ケアマネージャー等の協力を得て開催した。



～参加者のニーズ～

- ・専門職に具体的な相談がしたい
- ・当事者同士の情報交換がしたい
- ・「自分だけじゃない」と感じたい
- ・リフレッシュしたい

<成果、課題>

- ・認知症カフェの位置づけ、要素のヒントが得られた。

⑥認知症カフェの設置

○認知症の人や家族、地域住民が集うカフェを設置し、互いに交流を図ることで、認知症の早期発見・早期対応につなげるとともに、地域の認知症に対する理解を促進し、認知症の人や家族が地域で孤立しないように支援する。

○設置数 2か所

・プラチナカフェ りんりん店

(運営：NPO法人りんりん)

毎週火曜日 10時～14時 6月～

・プラチナカフェ かりやど憩の家店

(運営：住吉コミュニティ)

第2・4土曜日 12時～16時 10月～



○今後の方向性

27年度は、専門職による認知症カフェと地域ボランティアによるカフェをモデル実施し、その実施状況を評価・分析し、28年度以降の半田市における認知症カフェの在り方を検討し決定する。

<成果、課題>

- ・地域の身近な場所に、認知症に関して気軽に相談できる場所ができた。
- ・カフェの開始準備において、コミュニティの認知症理解を促進できた。
- ・介護家族の貴重な経験を活かす場ができた。

⑦地域での搜索模擬訓練の実施

○目的

認知症高齢者等が行方不明になった際に、早期発見・保護へつなげる見守り・SOSネットワークを構築するため、地域住民や関係団体による搜索模擬訓練を実施した。

○日時

- ・平成27年4月21日（火） 事前説明会
- ・平成27年5月 8日（金） 搜索模擬訓練
- ・平成27年5月22日（金） 効果検証会議

○参加者

地域住民、民生委員、消防団、知多地域安心ネット、民間企業（加藤電機株）、包括、行政

○実施方法

- ・市内事業所である加藤電機株が開発したSANフラワー（GPSを用いない搜索システム）を活用
- ・参加者が徘徊役と搜索役に分かれて実施



<成果、課題>

- ・地域住民を含めた関係者の行方不明対策への意識の向上につながった。
- ・実際の場では、高齢者へどのように声を掛けたら良いか、躊躇することがわかった。

⑧行方不明高齢者情報メール配信システムの導入

○高齢者が行方不明となった場合に、検索や情報提供の協力者として事前に登録していただいた市民等に対し、情報をメールにより一斉配信し、情報提供・検索に協力していただく。

○配信する情報について

- ・原則、市内在住者が行方不明となった際に情報配信する。
- ・登録の区分によって配信する個人情報の内容を制限をする。
(区分A：氏名、所在地等を制限して公開、区分B：検索に必要な情報を公開)

○メール受信者について

- ・原則、半田市に在住、在勤、在学し、不明者に関する情報提供等に協力していただける方（登録区分：A）
- ・認知症サポーターフォローアップ講座を受講し、実動で検索に協力していただける方（登録区分：B）
- ・行方不明高齢者検索ネットワーク（仮称）（登録区分：B）

○事業開始時期

- ・平成27年10月から登録、情報配信開始

<成果、課題>

- ・登録者をどのように拡げていくか。
- ・受信したメールに対して、個人情報の取扱いへの意識をどうようにして高めていくか。

⑨認知症の方が安心して暮らせるまちづくり連携協定

認知症に対する理解促進、早期発見・治療への取組みを進め、認知症の方が安心して暮らせる地域づくりの推進に資するため、一般社団法人半田市医師会及びエーザイ株式会社と半田市の三者による連携協定を締結した。

○協定締結日

平成27年4月9日

○連携内容

- ①認知症に関する理解促進・啓発に関すること
- ②医療・介護のネットワーク強化に関すること
- ③その他、認知症の方が安心して暮らせるまちづくりを推進する取組に関すること



⑩連携協定に基づく事業展開

(1) 認知症理解促進市民講座・多職種連携のための意見交換会

○認知症理解促進市民講座

日常生活圏域毎1会場（半田市内5会場）にて、
認知症サポート医などによる講座を開催。

参加者合計 357名



○多職種連携のための意見交換会

日常生活圏域の医師・薬剤師・訪問看護師・
ケアマネ・医療機関職員・グループホーム・
デイサービス・ヘルパー事業所等の職員・
包括・行政による顔の見える関係づくり。
レビー小体認知症の理解促進。

参加者合計 82名

半田市医師会・エーザイ（株）・半田市にて共催



<成果、課題>

- ・市内の全認知症サポート医と連携が図れた。
- ・認知症に関する受診のスタートは「かかりつけ医」であることを、住民に直接伝えることができた。
- ・小地域での医療・介護の顔の見える関係づくりをスタートすることができた。

⑩連携協定に基づく事業展開 (2) 認知症理解促進講演会

「我がまち半田の認知症対策を考える」

日時：平成27年 9月27日（日）
13:30～16:00

会場：半田市福祉文化会館（雁宿ホール）

参加者：516人

主催：半田市、半田市医師会、エーザイ（株）

内容：

【第1部 特別講演】

○テーマ：「認知症を正しく理解する」

○講師：国立長寿医療研究センター副院長 鷺見幸彦先生

【第2部 パネルディスカッション】

○テーマ：「半田市の認知症対策を考える」

○パネリスト：半田市医師会副会長（医師）、介護事業所（ケアマネジャー）、
認知症の人と家族の会（家族介護者）、地域コミュニティ施設長（地域住民）



<成果、課題>

- ・認知症に関する知識と半田市の取組みを理解した認知症サポーターを多数養成することができた。
- ・半田市の認知症に関する取組みを多くの方に知っていただくことができた。

⑪健康づくりリーダー養成研修

○第1回「認知症安心ガイドブック活用講座」

○第2回「コグニサイズ講座」

市内の健康体操同好会の参加者の多くは高齢者であるため、体操を指導する健康づくりリーダーへ、外出する機会の継続・参加者の緩やかな見守り・認知機能低下の早期発見の重要性を伝えた。

従来の健康体操にコグニサイズの要素を取り入れていただくために、愛知県認知症予防運動プログラム研修を受講した職員が開催した。



<成果、課題>

- ・市内の50を超える健康体操同好会の指導者の認知症に関する理解を高めることができた。
- ・認知症予防教室(コグニサイズ)の地域開催に向けて、さらに研修が必要。

⑫認知症予防教室修了者自主グループ支援

○外出の機会、地域での交流の場、参加意欲の継続

地域特性を生かした介護予防の試行

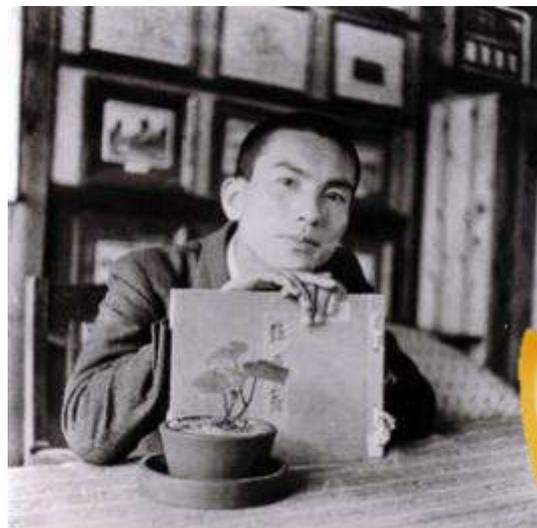
～童話作家新美南吉生誕の地・半田～

「南吉を知り、南吉作品に触れ合おう」

- ・南吉記念館学芸員による講話
- ・南吉作品の音読

○ボランティア育成研修の開催

「どんな働きかけが、参加者の意欲を引き出すか？」



<成果、課題>

- ・半田市ならではの介護予防の展開に着手できた。
- ・ボランティア育成を通して、地域の認知症対応力の向上を図れた。

2. その他の取組状況

①在宅医療・介護連携部会の設置

○地域包括ケアシステム推進協議会に「在宅医療・介護連携部会」を設置し、以下の内容を検討する。

○目標

慢性期・維持期・終末期において、必要となるサービスを在宅でも提供されるような支援体制の構築

※医療・介護を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で人生の最期まで暮らし続けることができるよう、在宅医療と介護サービスを一体的に提供する体制を構築する。

○メンバー

医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護、看護師、ケアマネ、包括、行政

○具体的な内容

①連携ツールの集約と使い方（ルール）の整理
（ICTの活用も含む）

②在宅医療・介護連携についての相談窓口の機能

○開催頻度

1回／月（毎月第2水曜日）

<成果、課題>

・ICTのテンプレートを多職種で検討することで、医療介護連携に当たって、お互いが必要と考える情報について共通理解できた。

②在宅生活支援部会の設置

○地域包括ケアシステム推進協議会に「在宅生活支援部会」を設置し、以下の内容を検討する。

○目標

在宅生活が継続できる生活支援サービスの充実

※単身世帯や軽度認知症など支援を必要とする高齢者に対し、多様な生活支援サービスを提供し、かつ、サービスの担い手に高齢者が参加することで、生きがいや介護予防効果につながることで健康寿命の延伸を目指す。

○メンバー

ケアマネ、介護事業者、はんだまちづくりひろば、ボランティア・NPO、市民協働課、生涯学習課、包括、行政

○具体的な内容

①新しい総合事業の制度理解

②介護予防・生活支援サービスの検討

(対象者、サービス内容、基準、担い手等)

○開催頻度

1回/月(毎月第2火曜日)

<成果、課題>

・インフォーマルサービスについて、現状を共有することができ、新しい総合事業の検討に進むことができた。

③地域ケア会議の充実

○多職種事例検討会（前期3回開催）



○ケアマネ・訪問看護連携



○ふくし井戸端会議（前期14回開催）



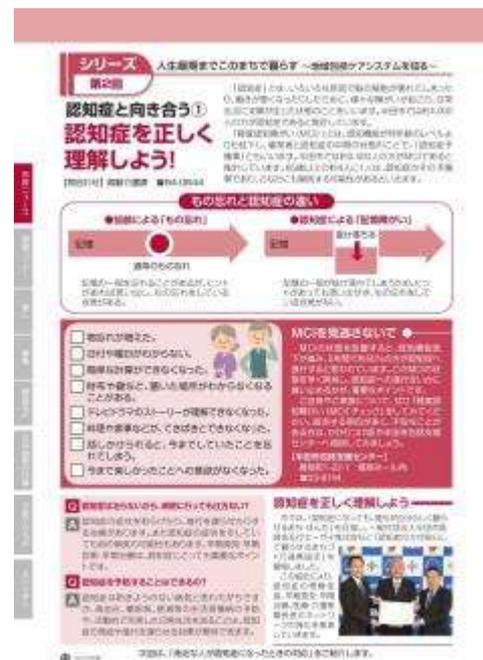
<成果、課題>

- ・医療介護の顔の見える関係づくりを推進することができた。
- ・地域課題について、専門職間、地域で検討することができた。

④地域包括ケアシステム普及啓発コラムの市報連載

○地域包括ケアシステムの構築における「本人と家族の選択と心構え」と各分野について、毎月1回市報へコラムを連載し、普及啓発を行う。

- 医療
「病気に備える」
- 介護予防・地域支援
「身近にある私たちの居場所」
「半田市の介護認定の原因疾患」
- 認知症支援
「認知症と向き合う」
- 在宅医療・介護
「住み慣れた地域で
最期を迎えるために」



<成果、課題>

・市民に地域包括ケアシステムに関する取り組みを知っていただくことができた。

3. 平成27年度後半の取組予定

①家族支援プログラムの開催

○目的

認知症の人を抱える家族介護者が自身の問題解決能力を高めることにより、介護負担を軽減させ、知識不足によるトラブルを防止し、早期に認知症の人との安定した生活が営めるように支援する。

○対象

認知症の初期から中期の方を介護している方

○実施期間

平成27年10月～平成28年3月（計6回）

○内容

介護者相談交流会、認知症の基本的な知識、サービスのいろいろ、介護の仕方と介護者の心、認知症の方へのリハビリ、医師との関わり方・薬について

○委託先

公益社団法人 認知症の人と家族の会 愛知県支部

②認知症サポーターフォローアップ講座～対応実践編～

○行方不明捜索模擬訓練の効果検証にて抽出された課題

- ①認知症について理解した上で捜索にあたる必要がある。
- ②観察ポイントを理解して、認知症の方に気づく目を養う必要がある。
- ③実際に認知症の方に遭遇、発見した際に、どのように声をかけたら良いのかわからず躊躇してしまう。

○行方不明高齢者情報メール配信の計画にあたり浮き彫りになった課題

- ①認知症高齢者を詐欺等の被害から守りつつ、捜索に必要な個人情報を配信するには、情報の制限及び配信先に条件が必要である。



認知症の方への対応方法を学び、実際に声を掛けることが可能になるように、認知症サポーターフォローアップ講座を開催する。

③認知症サポーターによる行方不明者搜索訓練

○参加条件

- ②認知症サポーターフォローアップ講座～対応実践編～の受講者で、行方不明者搜索に協力の意思があり、個人情報の保護について理解いただける方。
- 行方不明高齢者情報メール区分Bの登録が可能な方。

○開催予定日

平成27年12月1日（火）

○訓練本部

半田市役所

○内容

行方不明高齢者情報メール区分B及びSANフラワー（GPSを用いない搜索システム）を活用して搜索訓練を行う。

④高齢者の住まいに関する検討会議

○目的

ひとり暮らし高齢者や夫婦のみの高齢者世帯の増加が見込まれる中、地域生活の最も基本的な基盤である住まいの確保は今後ますます重要となることから、高齢者（特に低所得の要介護者）の住まいに関して、現状分析、調査・研究、検討する。

○構成メンバー

建築課、半田市包括支援センター、高齢介護課

○今年度3回程度開催予定

⑤地域による介護サービスの創出

○新しい総合事業の訪問型及び通所型サービスの担い手をイメージし、市民ボランティアを発掘、育成するため、ボランティア養成講座を実施し、既存団体へのコーディネートや団体の設立を支援する。

○まちづくりひろばとの協働でボランティア養成講座の実施

○講座を受講したボランティア等が運営する通いの場（サロン）の設置や生活支援サービスを創出する。



お問合せ先

半田市福祉部 高齢介護課 高齢者福祉担当

住所：〒475-8666 半田市東洋町2-1

電話：0569-84-0644

メール：kaigo@city.handa.lg.jp